Sony Music Foundation

子ども音楽新聞

2014年4月

第21刊

コンサートホールってどんなところ？

知っているようで知らないことがたくさんありそうなコンサートホールを、第21・22刊の2回にわけてご紹介します！

コンサートホールに詳しくなろう！ 1

ホールって？

音楽を聴く時にとても重要な要素のひとつが、場所です。野外で開放的に聴く楽しみもありますが、音楽専用に建てられたコンサートホールで聴くのは、また格別な体験です。なぜなら、ホールは音楽を最もよい条件で聴くことができるように設計されているから。

さらにそこは、音楽を聴くという共通の目的や趣味を通して、多くの他の人たちと同じ時間と空間を共有する特別な〝場〟でもあります。

昔の人は、非日常の特別な行事を「晴（ハレ）」、普段いつもある日常のことを「褻（ケ）」という言い方で表現しましたが、ホールは建物としても高級感たっぷりの雰囲気なので、その「晴」がもつ昂揚した気分を一層強く刺激してくれます。

どうしてホールが必要？

音楽を心地よく聴くには、残響（ひとつの音が発せられてから、完全に消えるまでの響き）というものがポイントになってきます。音というものは、たとえばお風呂場だと響き過ぎるし、屋外では拡散してしまって遠くまで届かず、細かな動きも聴き取りにくくなります。そのため各コンサートホールでは、最高の響きを目指して、残響を時間で換算すると1.8秒や2秒、あるいは2.3秒などとホールごとにとても細かく調整しているのです。

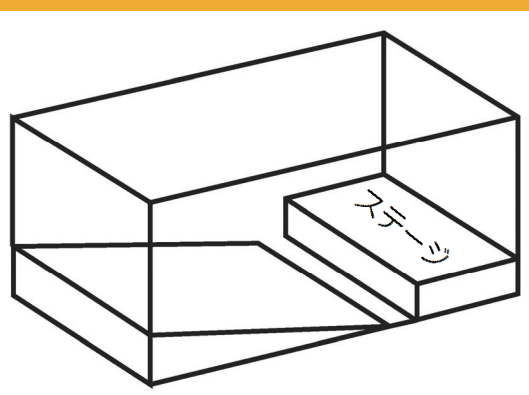
音楽には様々な情報が含まれています。オーケストラの各楽器の個々の動きもそうですが、特に天井や壁にぶつかって反射してくる音の成分の効果などは、CDやインターネットでは体感できません。ですから、ホールはなくてはならないものなのです。

どんな違いがある？

ホールの〝型〟の面で大きく分けると、①シンプルな長方形の箱型と、②開放的な型の2つが主流といえます。

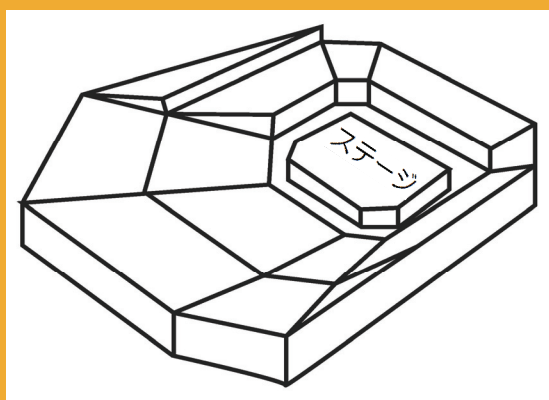
①の方は、〝シューボックス型〟と呼ばれます。シューボックスというのは靴を入れる箱のこと（下駄箱ではありませんよ）。ティッシュー・ボックスでも何でも、一般的な箱のような形と思ってもよいでしょう。音響のよさで知られる歴史あるホールは、ほとんどがこちらです。

① シューボックス型



②は様々なタイプがありますが、その典型のひとつは、ステージをぐるりと囲むスタイルで、すり鉢のような形のもの。その形状から、〝アリーナ型〟だったり、段々畑のようにも見えるので〝ヴィンヤード（=ぶどう畑）型〟と呼ばれたりもします。こちらの利点は、音響もさることながらどの席からも見やすく臨場感たっぷりなことにあります。

② ヴィンヤード型（アリーナ型）



その他にも、両者を混ぜたような、客席後方に向かって末広がりになったり、両脇が少し広がっていたりする型、さらには〝扇型〟とか〝馬蹄型〟なども見受けられます。それぞれのホールがベストでありたいと願い、色々とアイディアが練られているわけですね。

天井と壁のひみつ

その他にも天井や壁も大切です。天井までの高さもそうですが、その形にもよく注意してみてください。上にのぼった音が天井に反射して客席になるべく均等にうまく届くよう、波打っていたり、段々になっていたりと、様々な工夫が凝らされています（壁の形状も同様）。中には可動式といって、演奏内容に合わせて天井を動かすことができるホールもあります。スタイルとしてユニークなのは東京オペラシティのコンサートホールでしょう。ステージ正面はまるでピラミッドや「A」の形のように上に向かって狭まってゆき、そこから、後に向かって光が放たれて広がってゆくようにデザインされています。（文・松本 學）

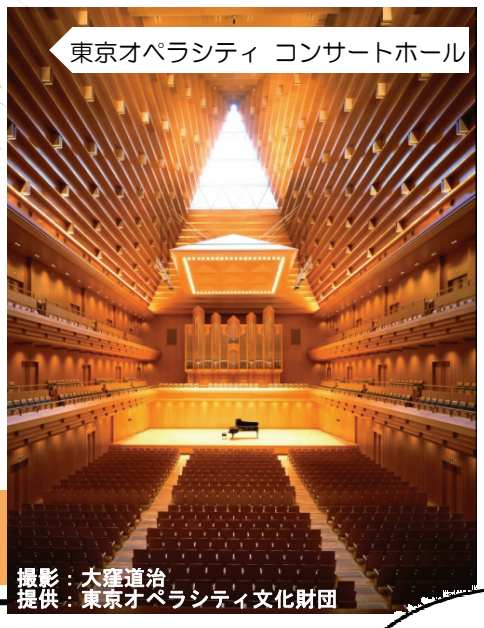
次回の第22刊では、日本と海外のホールについて更に詳しくご紹介します。お楽しみに！

東京にあるコンサートホールの紹介 その①

東京オペラシティコンサートホール:タケミツメモリアルは、東京・西新宿に1997年にオープンした客席数1632のクラシック音楽専用のコンサートホールです。音響的に最もよいとされているシューボックス型のホールで、大胆な変形ピラミッド型の高い天井があり、内装は共鳴や振動に優れている「天然木」で仕上げてあります。これにより、ホール自身が明瞭な響きと艶のある音色を持つ巨大な楽器となっています。設計段階から深くたずさわり、オープニングを前に他界した有名な作曲家・武満 徹 氏への感謝と敬愛の気持ちからホール名に「タケミツメモリアル」とついています。また、東京オペラシティリサイタルホールも同じくシューボックス型（客席数265）で、ソロリサイタルや室内楽コンサートなどに利用されています。

またアクセスもよく、最寄り駅の初台までは新宿からは電車で僅か2分です。地下鉄の駅からつながっていますので、雨の日でも濡れずにお越しいただけます。

（東京オペラシティ文化財団・スタッフの方より）



撮影：大窪道治
提供：東京オペラシティ文化財団

京王新線「初台駅」
東口直結

5月30日には、
『10代のためのプレミアム・コンサート【2】ベルリン・フィル・ホルン・カルテット』が行われるよ！
（詳しくは裏面へ）

サントリーホールは、東京・赤坂のアークヒルズの一角にあるコンサート専用ホールで、初代館長で当時サントリー社長を務めていた佐治敬三の夢として1986年に誕生しました。「世界一美しい響き」を基本コンセプトに設計され、当時、ヘルベルト・フォン・カラヤン氏はその響きのよさに感動し、「まるで音の宝石箱のようだ」と感想を述べています。大ホールは、客席数2006で、日本初のヴィンヤード形式を採用、聴衆が一体となって音楽体験ができます。また、小ホールは「ブルーローズ」と名付けられ、様々な演奏会や講演会が行われています。多彩な企画、公演と、きめ細やかなサービスで「世界最高峰のホール」を目指しています。

（サントリーホール・スタッフの方より）

写真提供：サントリーホール

毎年、
Sony Music Foundationが
『日赤献血 チャリティ・コンサート』を行っているホールだね。

東京メトロ銀座線・南北線
「溜池山王駅」徒歩約7分
東京メトロ南北線
「六本木一丁目駅」徒歩約5分

Sony Music Foundation

Sony Music Foundation は、2014 年に設立 30 周年を迎えました。

きく・みる・かんじる・つなぐ

～次の世代へ。良質な、新しい感動を～

10 代のためのプレミアム・コンサートって？

次世代の子どもたちに向けて様々な活動を行ってきた Sony Music Foundation（公益財団法人ソニー音楽財団）は 2014 年に設立30 周年を迎えます。その 30 周年記念コンサート・シリーズのひとつが、10 代の子どもたち向けに趣向を凝らしたプログラムによる「10 代のためのプレミアム・コンサート」です。

このコンサートでは毎回違う楽器の編成に焦点をあて、オーケストラ、金管楽器、弦楽器、木管楽器、ピアノ、そして番外編ではビッグバンドと、バリエーションに富んだ編成のコンサートが目白押しです。また編成に合わせて、さまざまなホールに出かけられるのも魅力です。普段なかなか接することのできない超一流の演奏を、特別価格で気軽に聴ける滅多にないチャンス！！きっと、今までに経験したことのないような感動が味わえるはず。さあ、みんなでコンサートに出かけよう！

これが ニューヨーク・
フィルのロゴマークです。
シンプルで
カッコイイですね！

日本語で各楽器について、
ていねいに説明するアラン・ギルバート。
とっても緊張していたそうですが、
見事なナレーションで分かりやすかった！

公演レポート

ソニー音楽財団 30周年記念公演 10代のためのプレミアム・コンサート【1】
アラン・ギルバート&ニューヨーク・フィルハーモニック〝が開催されました！

今年の2月11日、ソニー音楽財団が設立30周年を記念して企画した〝10代のためのプレミアム・コンサート〟の第1弾が、サントリーホールを会場に行われました。出演したのはニューヨーク・フィルハーモニック（NYP）。1842年（日本では江戸幕府が天保の改革を実施した年）に創設された、今年で172年もの歴史を誇るアメリカの代表的老舗オーケストラです。

今回NYPは、日本への演奏旅行中に2種類のプログラムで計5回程の公演を行いましたが、このプレミアム・コンサートでは、それとは別にこの日だけの特別プログラムを組みました。さらに、ジャズ・ピアニストの小曽根 真さんも進行役として登場するという豪華なひと晩になりました。

ブリテン：
《青少年のための管弦楽入門》

ナレーション：
アラン・ギルバート

指揮：
ジョシュア・ワイラースタイン

© 堀田 力丸

コンサートの最初の曲は、英国の作曲家ブリテンの《青少年のための管弦楽入門》。この曲は、英国の教育用映画のために作曲されたもので、オーケストラで通常用いられる楽器を順番に紹介してゆく作りになっています。それぞれの楽器が紹介される前にナレーションを付けてもよいようになっているので、10代のお客さんのために是非！ということで、NYPの音楽監督である指揮者のアラン・ギルバートが自らその役に名乗り出ました（彼は母親が日本人なので、少し日本語が話せます）。そこで、この曲ではアシスタントのジョシュア・ワイラースタインが指揮をし、隣でギルバートがナレーションを担当。演奏は、名手の揃ったオーケストラですから、どのパートもそれぞれの楽器の魅力を十分に聴かせくれたのは言うまでもありません。

© 堀田 力丸
指揮をする
アラン・ギルバート

続いては、〝ミュージック・フォー・フクシマ〟と題し、福島とニューヨークの子どもたちが共同で制作した作品が日本で初めて披露されました。これは、福島大学附属小・中学校に通う10～15歳の生徒が先に短い作品を3つ作曲し、それぞれに対してニューヨークの子どもがあたかも和歌の返歌のように応えて書いた6曲セットです。懐かしさや勢い、希望を感じさせる各曲は、どれも若々しく感動的でした。

休憩を挟み、後半はアメリカならではのバーンスタインの《ウエスト・サイド・ストーリー》より〈シンフォニック・ダンス〉。バーンスタインは今から50年程前にNYPの音楽監督でしたので、ギルバートの先輩に当たります。彼が書いた有名なミュージカルの名旋律を抜粋してつなげたこの曲では、NYPの持っているパワーのスゴさで客席を圧倒しました。

最後はジャズとクラシックの両方で活躍したガーシュインが書いた《ラプソディ・イン・ブルー》。この曲では小曽根さんがピアノのソリストを務め、NYPの華麗なサウンドをバックに、小曽根さん独自の味を随所に加えて、オリジナリティ豊かな演奏を聴かせてくれました。

息のあった
大迫力の演奏で
会場は熱気に
包まれました！

© 堀田 力丸

ガーシュイン：
《ラプソディ・イン・ブルー》

指揮：
アラン・ギルバート

ピアノ：
小曽根 真

なお、今年ソニー音楽財団は、若い音楽ファンのために1年をかけて6つのプレミアム・コンサートと4つのレクチャー&コンサートなどを予定しています。NYPはそのひとつめ。この先も次回の東京オペラシティ公演をはじめ、まだまだコンサートは続きますので、是非あれもこれもと欲張って、様々なタイプの音楽と演奏家、会場など、音楽の現場の魅力にたくさん触れてほしいと思います。

（文・松本 學）

次回の１０代のためのプレミアム・コンサートのご紹介

ベルリン・フィルの精鋭４人が贈る、最上のホルン・アンサンブル

10 代のためのプレミアム・コンサート【2】
ベルリン・フィル・ホルン・カルテット（ホルン四重奏）

5.30 金　19 時開演　約 100 分予定（休憩含む）

東京オペラシティ コンサートホール

S10代 ：¥2,000　S 保護者 ：¥4,000
A10代 ：¥1,000　A 保護者 ：¥2,000

※10 代券は公演日時点で小学校 1 年生～19 才の方が対象。公演当日、学生証・保険証など年齢確認出来るものをお持ちください。※10 代券対象の 1 名につき、保護者の同伴は 4 名までとさせていただきます。※公演当日、保護者は 10 代券対象者とご一緒に入場ください。

ベルリン・フィル・ホルン・カルテット
（シュテファン・ドール、クラウス・ヴァレンドルフ、ファーガス・マクウィリアム、サラ・ウィリス）
ナビゲーター：ジョナサン・ハミル（東響首席ホルン奏者）

第１部：角笛からホルンへ
ボザ：４本のホルンのための「組曲」
R.シュトラウス：ティル・オイレンシュピーゲル・プルース
第２部：ベルリン・フィル・ホルン・カルテットの世界一周
ウェーバー：「魔弾の射手」より狩人の合唱
デ・ファリャ：「三角帽子」より『粉屋の踊り』他

http://www.smf.or.jp/30th

発行：公益財団法人ソニー音楽財団（Sony Music Foundation）　〒162-0843 東京都新宿区市谷田町 1-4 SME 市ヶ谷ビル 8F　TEL：03-5227-5233（平日 10-18 時）　www.smf.or.jp/
無断転載複製禁止